

## 令和7年度事業報告書（北東京エリア）

### 1 令和7年度総括（成果、反省等）

- 1) 特養：「最後まで口から食べる」ことができるよう言語聴覚士を採用したことで、下半期の誤嚥性肺炎による入院件数は昨年と比較して6件から1件、入院日数も180日から18日と激減した。  
また、リフトの事故を予防するために、各チームにリフトリーダーを配置できるよう研修受講させた。  
職員の充足には取り組めたが、入居者の退居が多く、稼働率は昨年よりも3.2%減となった。
- 2) デイサービス：多数のイベント開催が定着、その強みを営業活動でアピールし2件の新規事業所を獲得。新規利用者は年間65名(前年比18名増)を獲得。利用者が主体となる、新たなサービス「5丁目カフェ」を開催し、自立支援に取り組み外部との交流も実現できた。登録者数93名、年間稼働率は前年比10.8Pアップの80.4%。新規を断らず登録者100名を目指して取り組んだ結果である。
- 3) ショート：職員異動により職員数が減少したことで受け入れ態勢が整わず、5か月に渡り受け入れ人数を制限した。その後、制限解除したが、リピーターが戻ることはなく、9月以降毎月12名以上の新規を獲得するも急激な稼働回復には至らなかった。前半の入所制限はあったものの、1月以降は、特養の空床利用も活用し稼働率100%超を達成し、年間稼働率は前年比3.1Pダウンの82.3%に留めることができた。記録を大幅に見直したことでケアの時間が増え、在宅生活と施設利用の好循環を作ることができた。
- 4) 就労支援：長年の悩みであった厨房や事務所などの問題について、大規模修繕を施設整備費と補助金を利用し無事行う事ができた。大規模修繕中は、施設外就労や内職業務の契約をとり、慣れない環境の中でも普段できない経験をする事ができ、フレンズの新たな一面を見る事ができた。一方で、外販・納品の拡大・充実し2か月半の大規模修繕で売り上げが滞る中、黒字で終わらせることが出来る見込みである。

### 2 トピックス（新規事業、重点実施事業等（独自で実施している地域貢献活動含む））

- 1) 介護：①近隣の高齢者施設と災害時応援協定を締結し、併せて地域住民とともに、防災訓練を合同で実施した。  
②社会貢献として、献血車による献血活動を実施した。  
③令和8年年2月より北区では社会福祉法人初となる認知症カフェ(朋カフェ)をプレOPENした。4月から本格始動となる。
- 2) 特養：会議議事録をExcelで作成し、クラウドで共有する。年間の議事録が一つで確認でき記載についても同時編集が可能になった事で、業務効率が上がる。記載漏れも減少。  
「耳かき」と「爪切り」のコーディネーターを新たに作り、利用者の不便を解消している。
- 3) デイ：毎月保育交流・おやつ作り・書道・音楽イベントなど月14回以上のイベントを開催し集客、ポスターを作成、うきまDSが広く認知され問い合わせが途切れなかった  
ボランティア数も増え、特に地域の方の参加が目立った。自立支援の目的で5丁目カフェを2回開催、他事業所ご利用者・子どもたちとの交流も実現した。
- 4) ショート：ICT活用などによる複数業務の効率化を進め、ケアの時間・活動(レク)時間を捻出。

ご利用者の健康状態・認知症状の改善に繋げることができた(\*WHO-精神的健康状態表に基づく分析)。また、3名の方にケア方法や福祉用具等提案した結果状態が改善された。寝台浴を導入したことで入浴支援の幅が広がりケアの質が向上。新たに爪切り・耳かきのサービスを始め、顧客満足のアップに繋がった。超過勤務は前年度比52%減、有休取得率アップで生産性向上推進体制(上位)加算Iを算定するに至った。

5) 就労支援: 大規模修繕では、地域企業にも施設外就労等でご協力いただいた。夏休みご飯応援プロジェクトが定着し、予想を上回る子供たちが毎日パンを食べに来店し、給食のないことで昼食を食べられない子供たちに貢献できた。こうほうえん職員と行う地域の健康教室ピラティス教室が定着し、地域の方が楽しみに参加していただき、また居場所支援やご飯応援プロジェクトの基金にも協力してくれ、幸朋苑事業への理解を深める事ができた。

### 3 エリア目標の達成度合とその評価 (戦略会議の資料等)

- 1) 特養: 目標稼働率 97.82%に対し、平均稼働率は 93%(前年比▲3.2P)であった。要因としては、42名退居と入居者の1/3が入れ替わる形となった。看護師の体制が厚いことから、医療依存度の高い利用者の入居受け入れをした結果、1年未満の利用者14名が再入院からの退居となった。このため11月からは病態安定した入居者を優先するようにしたが、3年以上の入居者の看取りが増え、1,2月で14名の退居となり、入居調整が追い付かずに稼働率低下に繋がった。
- 2) デイ: 目標稼働率 85.0%に対し、平均稼働率は 80.4%(前年比 10.8P アップ)であった。要因は、登録者100名超を目標にイベント・営業・SNS 発信を強化し、新たなサービスの開始等も居宅やご利用者に評価され、毎月途切れず一定数の新規獲得ができたことにある。また、追加利用や要介護者を増やし、併せて業務を見直し生産性を上げることで稼働アップに対応できた。
- 3) ショート: 目標稼働率 85.0%に対し平均稼働率は 82.3%(前年比▲3.1P)であった。要因は、年度初めの人員体制による受け入れ制限の影響である。その後リピーターが戻らず、新たなサービスを開始し新規獲得に奔走するもロング利用に繋がらなかった。後半徐々に制限を解除しつつ人員体制を整え、稼働率100%超えまで回復させることができた。
- 4) 就労支援: 大規模修繕を無事終了し、黒字を確保できる見込みである。修繕中は2度にわたる引越しや慣れない事業に職員の疲弊が目立った。一方、うきま幸朋苑の窓口として公益事業について積極的に取り組んだ。またインスタの発信も積極的に行いフォロワーが2,000人を超えた。

### 4 入所系事業所(デイハウスは登録人数)の稼働率の推移(稼働率:小数点第1位)

事業所名	定員(人)	令和7年度(%)	令和6年度(%)	令和5年度(%)
介護老人福祉施設 うきま幸朋苑	115	92.6	95.2	95.7
デイサービスセンター うきま幸朋苑	30	80.4	69.6	71.9
短期入所生活介護 うきま幸朋苑	19	82.3	86.6	93.4

5 各エリアの取り組み実績

<p>年間行事一覧</p>	<p>[4月]職員コンサート・あすなろ会演芸会・似顔絵ボランティア・書道・巫女さん舞踊・三味線・ドライフラワー小物作り・季節湯</p> <p>[5月] 職員コンサート・子供の日レク・パフェ作り・赤羽警察詐欺予防講習・保育交流・しおり作り・書道・季節湯</p> <p>[6月] こうほうえん祭り・沖縄民謡演奏会・書道・貝殻のマグネット作り・黒糖饅頭作り・季節湯</p> <p>[7月]七夕行事・三味線・書道・フラダンス鑑賞・風鈴作り・ブレスレット作り・5丁目カフェ・季節湯・保育交流</p> <p>[8月] スイカ割り大会・書道・焼き菓子作り・うちわ作り・季節湯・美容レク</p> <p>[9月]敬老会・書道・美容レク・季節湯・三味線・保育交流・フルーツ白玉作り・デコボールペン作り・沖縄音楽(城間 竜太さん)コンサート・</p> <p>[10月]5 丁目カフェ・保育交流(ハロウィン)・フラダンス鑑賞・畳コースター作り・パフェ作り・三味線・季節湯</p> <p>[11月] バナナクレープ作り・秋祭り(縁日)・ネックレス作り・クレパスアート作り・職員コンサート・季節湯 (就労支援)鎌倉江ノ電散策</p> <p>[12月]クリスマス会(ゲーム)・クリスマスコンサート・書道・美容レク・ぼっくりツリー作り・デコポーチ作り・明太ポテト包み焼き作り・季節湯 (就労支援) 横浜中華街散策</p> <p>[1月]初詣、新年芋煮会・アート作品作り・ネックレス作り・美容レク・保育交流・書道・季節湯</p> <p>[2月] 節分鬼退治レク・クレパスフルーツアート作り・5丁目カフェ・美容レク・職員コンサート・畳コースター作り(2回目)・季節湯</p> <p>[3月] 職員大正琴演奏・美容レク・書道・保育交流・ボトルピース作り・ひな祭りレク・キーホルダー作り・オイルクレパス作品作り・あすなろ会演芸・季節湯</p>
<p>BCP等訓練実施状況</p>	<p>災害BCP訓練 6/12・3/13~31</p> <p>災害BCP研修 10/21・3/17</p> <p>感染BCP訓練</p> <p>感染BCP研修 8/28・11/20</p>
<p>エリア内研修状況</p>	<p>新人職員研修、ユニットケア研修、リスクマネジメント研修、介護技術研修、身体拘束適正化研修、研究発表事前研修、虐待防止研修、ビジネスマナー研修、アンガーマネジメント研修、感染症研修(吐物・手洗い)、看取りケア研修、安全運転研修、法令遵守研修、認知</p>

	<p>症研修、リフト操作研修、個の尊厳プライバシー保護の研修、食中毒研修、ICT 機器に関する研修、眠りコネクト研修、noman 使用研修</p>
<p>エリア内会議、委員会活動</p>	<p>介護戦略会議(毎月)、エリア戦略会議(毎月)、健康戦略会議(毎月)、特養専門職連携会議(毎月)、在宅主任会議(毎月)、ユニットリーダー会議(毎月)、ユニット会議(毎月)、デイ会議(毎月)、ショートステイ会議(毎月)、給食会議(毎月)、医務会議(毎月)、公益的事業定例会議(毎月)、身体拘束適正化委員会(3 ヶ月に 1 回)、虐待防止委員会(3 ヶ月に 1 回)、生産性向上委員会(3 ヶ月に 1 回)、LIFE 部会(毎月)、リスク部会(毎月)、排泄部会(2 ヶ月に 1 回)、褥瘡部会(毎月)、感染対策部会(3 ヶ月に 1 回)、エルダー会義(毎月)</p>
<p>委員会活動等の成果・実績・反省</p>	<p>リスク部会:令和 7 年度は部会の時間を 45 分へ伸ばし、リフト、誤嚥予防等のミニ研修も実施。多職種連携により、リスクマネジメントに努めた。全体的な事故件数は 305 件から 280 件に減少し、防ぐべき事故は 280 件中、185 件発生。(内 114 件を要因レベル③が占めている。)リスク部会では「要因レベル①をなくし②を前年度より減らす」目標としていたが、②は前年度 61 件に対し、70 件と増加。ご意見での①が 1 件発生といずれも目標達成できない結果となった。5-1 レベルも 2 件発生しているが、2 件ともご利用者の急変による「防げない事故」に分類されるものであった。</p> <p>全体的にご利用者の ADL の低下がみられ、3-1 レベルも前年度よりも 7 件増加。「防ぐべき事故」の 3-1 は特養で 2 件、SS で 2 件発生。転倒転落事故 144 件に対し、骨折は 5 件でパーセンテージにして 3.5%である。1 件以外は「防げない事故」に分類されるものであった。今年度は「ころやわ」を導入し、ヘッドギア、クッションパンツ、自動ブレーキ車椅子の運用にて、各チームで事前に「事故が起きても怪我をしない防止策」に力を入れた結果と言える。ミニカンファ、ユニット会、チーム会で部会員以外への発信と周知をより強化し、サービスの質の向上、0 レベル、「防ぐべき事故」予防の水平展開に努める。</p> <p>LIFE 部会:毎月 1 回実施。LIFE の研修を追加し、全職員に対して認知・理解度を周知させることができた。また前年度様式変更したプランも全利用者変更確認済・更にモニタリング表も変更プランに即した様式へ変更し、R8 年 5 月までに全利用者変更終了予定。</p> <p>一通り運用できており、今年度で LIFE 部会としての役割は終えたと考えられるため、次年度は体制変更に伴い新たに「ケアプラン研修会」として運用予定。</p>

	<p>排泄部会:排泄用品のコスト削減を目標とし、令和 6 年度のおむつ代は 7,131,468 円であった。R7 年度は 6 月よりおむつ 1 枚あたりの単価が約 35%上昇したが、年間総額は 7,159,061 円に抑える事ができた。仮に R6 年度と同様の使用量であると、約、9,627,000 円になると試算され、R6 年度と比較すると、25～26%のコスト削減となった。定期発注をやめた事で在庫を増やさない取り組みや適正なパットの選定を実施した結果と言える。また、おしりふきについても、業者を変更しR6 年度は 795,340 円であったが、R7 年度は 531,392 円削減し 33.2%のコスト削減となった。今後はますますの物価高騰が予想される為、R8 年度は使用枚数を洗い出し、必要枚数のみの発注を行い、無駄な使用を防ぐ取り組みを行う。ケアについての取り組みも検討する。</p> <p>感染症対策部会:4回/年感染症部会を実施し蔓延防止対策として 8 回の研修を行いコロナウイルスが 5 類になった事により発熱時の対応の流れを見直しフローチャートとし各フロアーにて机上訓練を実施。また、外部への感染症の対策の基本を発信し、連携病院からの感染症専門看護師による研修を受け特養では大きな感染拡大もなかった。在宅でのノロ感染時の初動の遅れもあり再度発信・研修が必要である。次年度力を入れ感染予防を行う。また、グローバル様にガウン・マスク着用方法の動画作成・ノロ感染時の継続ケアマニュアル作成中</p> <p>褥瘡部会:褥瘡総件数 28 件(うち持ち込み 9 件)          臀部褥瘡 12 件(うち車椅子上 10 件)          湿潤が要因の褥瘡 9 件(うち車椅子上 8 件)          1度未然に防ぐための取り組み R6:10 件➡R7:22 件          重度ご利用者が増えた影響により持ち込みの褥瘡は増えている状況であった。重度化する前の早期発見への意識は高まりⅡ度以内での発見が図れている。臀部の褥瘡において、75%が失禁性皮膚炎の悪化によるものとされているため今後の課題である。</p>
--	--

6 人財状況

<p>外部研修等講師派遣実績</p>	<p>日本福祉教育専門学校 1 件(田名部 周悠)</p>
<p>外部役職就任状況</p>	<p>・北区老人福祉施設 施設長会 副会長 田中理江子          ・東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会 介護職員研修委員会 幹事 金海 祐介</p>

	<p>・東京ケアリーダーズ 田名部 周悠</p> <p>・テクノエイド協会リフトリーダーテキスト研修委員会 委員 持吉孝郎</p>
外部表彰受賞状況	第3回福祉サービス実践・研究発表会(長岡福祉会) 優秀賞

7 地域貢献実績(保育園含む)

<p>実習受け入れ実績 延人数 113人</p>	<p>十文字学園、昭和女子大学、東京家政大学、聖学院大学、帝京大学(看護)、東洋大学、明治学院大学、浮間中学校特別支援学級、王子特別支援学校、東京教育専門学校</p>
<p>ボランティア受け入れ 実績 延人数 517人</p>	<p>スターフェスティバル(楽器演奏)、未来プロジェクト(美容)、帝京大学、桐ヶ丘高校、似顔絵サークル、職員知人(フラダンス)、近隣住民(傾聴・将棋・制作・書道)、全国こども食堂支援センターむすびえ</p>
<p>見学受け入れ実績 実人数 54人</p>	<p>利用者、ご家族、居宅介護支援専門員、入所(利用)希望者、実習希望者、民生委員、(株)リタリコ、北区施設長会、王子特別支援学校、板橋特別支援学校、豊島区仕事相談センター、個別対応入園希望者、北区民生委員</p>
<p>地域交流活動実績1 実施回数 15回 実人数 378人 延人数 378人</p>	<p>(事業所内又はこうほうえんが主催した交流事業) こうほうえん祭り 1,000名、花火鑑賞会 名、子ども食堂(12回)360名、朋カフェ(2回)4名、わくフェス(2回)3名</p>
<p>地域交流活動実績2 実施回数-回 実人数-人 延人数-人</p>	<p>(地域の交流事業に利用者と共に参加したもの)</p>
<p>ボランティア・環境活動等の実参加者数</p>	<p>(ボランティア・環境活動等に1回でも参加した職員数) 地域夏祭り 3人・向原地域まつり 4人 /エリア職員数</p>
<p>ボランティア・環境活動参加実績1 投入実人数 138人</p>	<p>(清掃活動・消防団活動・地域防災活動等) 地域清掃活動 開催回数:12回 参加人数:138人 ・赤羽消防署主催、こひつじ園地域連携防災訓練参加(3人)</p>
<p>ボランティア・環境活動参加実績2 投入実人数-人</p>	<p>(見守り活動・学校活動の手伝い等)</p>
<p>地域発信活動実績</p>	<p>・第18回わくフェス(浮間・北赤羽協議体)</p>

(介護、看護の日、イベント開催等)	・第 19 回わくフェス(浮間・北赤羽協議体) ・北区社会福祉協議会主催・小学生向け職業体験
地域発信活動実績 (認知症サポーター養成講座、地域包括支援センターのみの活動は除く)	・子ども食堂事業「けんこうキッチン」 開催回数 12 回、参加述べ人数 261 名
地域発信活動実績 (講習会、講演会の主催及び参加等、地域包括支援センターのみの活動は除く)	・訪問看護向けシーティング勉強会の実施(持吉) ・第 5 回 SOEL COMMUNITY パネルディスカッションファシリテーターとして参加(持吉)

## 8 その他報告事項

事故の発生状況 (レベル 3 以上の事故)	こうほうえん事故レベル定義		年間件数
	レベル 3	事故の為、医療機関での継続的な治療が必要になった場合	16 件
	レベル 4	事故により、障がいが残った場合	0 件
	レベル 5	事故が死因となった場合	2 件
虐待及び身体拘束の状況	(実人員、延日数、簡単な状況を記載) (ない場合の例)高齢者虐待防止法に定める「虐待の疑い」があると判断し、市町村へ通報した事案はありませんでした		
感染症の集団発生状況(保健所報告分)	(報告日、収束日、感染者数を記載) R8.2.25～3.2 報告し 14 名感染性胃腸炎		
ご意見	設備に関する苦情	職員に関する苦情	感謝のご意見
	0 件	13 件	0 件